

参考文献 (おもなもののみ示す)

P. E. Fricker, R. T. Reynolds, A. L. Summers (1967): On the Thermal History of the Moon, Jour. Geophys. Res., vol. 72, no. 10 (May 15, 1967), p. 2649—2663  
 G. J. F. MacDonald (1961): Interior of the Moon, Science, vol. 133, no. 3458 (Apr. 7, 1961), p. 1045—1050  
 B. J. Levin (1966): Thermal History of the Moon and the Development of Its Surface, The Nature of the Lunar Surface (Proceedings of the 1965 IAU-NASA Symposium), p. 267—273

L. S. Walter (1965): Lunar differentiation processes, Ann. New York Acad. Sci., 123, Art. 2, p. 470—480  
 The Lunar Sample Preliminary Examination Team (1969): Preliminary Examination of Lunar Samples from Apollo 11, Science, vol. 165, no. 3899 (Sept. 19, 1969), p. 1211—1227



所から産するが 大晶はきわめてまれである。ウラルではムルシカで 前記のトパーズやベリルと花崗岩を貫く石英脈の空洞中に共産する。2月の誕生石

エメラルド ベリル(緑柱石 六方晶系)の翠緑色を呈するもので5月の誕生石である。色の変化によってアクアマリンやモルガナイトになる。エメラルドは6~12面の柱状をなした脆弱でダイヤモンドに匹敵する高価なものであり古くは病氣除けになると考えられたりした。脆弱なために 完璧なものを「瑕なきエメラルドの如く」とたとえられたりしたという。ウラルには数カ所の産地があるがスベルドロウ

スク付近のムルシカ シャイタンガ地方で雲母片岩やペグマタイト中に産し 1830年から1921年までに約50万カラット 1924年中には 2,500カラットの産額で 革命直後の輸出産業の役割りを果たした。

ロードナイト パラ輝石 (MnSiO<sub>3</sub>) 硬度 5.5~6.5 三斜晶系)は北海道の八雲鉱山や大江鉱山にも産するさほど珍しくない鉱石である。しかしスベルドロウスクはエカテリンブルグといわれていた昔から ロードナイトで盛大に花瓶 皿 宝宝箱 文鎮を作っていたので有名である。この地は時々大石を出し ロシア皇帝はこれで花瓶を作って贈答用に使用したらしい。時には彫造するのに30年かかった花瓶もあったそうである。

マラカイト 孔雀石 (Cu(OH)<sub>2</sub>·CuCO<sub>3</sub>) 単斜晶系 硬度 3.5)は銅鉱の酸化帯に産し ブドウ状や鍾乳状で晶形を示すことはまれであり 溶解しやすい。翠緑色から黒緑色を示し 研磨すると絹糸状光沢を示し 孔雀の羽のようである。ウラルのグメシエウスク銅山で長さ 5m 幅 2.4m 厚さ 1m という稀有のマラカイトが産出したことがあるが 通常は大石が少ない。それで小塊を薄板に切り合わせて器物の表面の修飾に使用している。スベルドロウスク北方のニジニタギルスク銅山のは特に有名でアレキサンドル皇帝からナポレオンに贈られたテーブル 水盆 花瓶 暖炉飾は今でもベルサイユ宮殿にある。

(ウラルに関する事項は 鈴木 敏 宝石誌による)

地学と切手

ウラルの宝石切手

P.Q.

1963年12月16日発行された6種セット ウラル地方で産出した美しい鉱物が原色刷りで産出状態のまま示されている。平版印刷で上につや引がしてあるが われわれにとってはその上にもうひとつスケールがほしい所である。額面価格の低い方から順に トパーズ ジャスパー アメシスト エメラルド ロードナイト マラカイトが示され 各切手には「ウラルの天然宝石 1963」と書かれている。これらのうち 1 2を除いては1級の宝石と言うわけではない。しかしウラルでは昔からこれらの世界的良品を産出することで有名だった。ウラルの鉱産地は山脈東腹にあるスベルドロウスク(旧名エカテリンブルク)周辺に集中している。

トパーズ 斜方晶系に属し11月の誕生石である。ウラルではムルシカに近いアラバスカに産する。ウラルガ河畔で産した最大のものは 長さ30cm 重さ約12kgに達し 旧ロシアの帝室博物館に陳列されていた。

ジャスパー 微粒緻密な石英で不透明である。多くは酸化鉄のため紅色 緑色 黄色 褐色などいろいろの色彩を呈する。エジプトは昔から上品を出したが ウラルもまたシシリー ダコタなどと共に産地として知られている。

アメシスト 紫色を帯びた石英でわが国でも足尾鉱山以下数カ